

8月8日(金) 15:10-18:00

WS3. 実践！科学ライティング入門～科学を伝えるということ

講師： 林 衛 先生（科学編集者・ジャーナリスト）

西村 尚子 先生（サイエンスライター・元科学雑誌 Newton 編集者）

渡辺 政隆 先生（サイエンスライター・科学技術政策研究所上席研究官）

～担当者から受講希望者へのお知らせ～WS 内容および事前課題について～

『わかりやすく』から『魅力的に』

科学ライティングの方法試論

当初開校 1 カ月前を予定した課題とテキストの公開が遅れてしまったことを、まずはお詫びしないとなりません。それだけでなく、主催者と相談のうえ、現役ジャーナリスト 2 名の応援を得、さらに実践的な企画となったことをお知らせいたします。(林衛)

今回のワークショップでは、科学ライティングの方法論を紹介するとともに、実際にみなさんに作品をつくっていただける実践トレーニングを準備しています。

そのポイントはつぎの 3 点です。

読者は『わかりやすさ』ばかりを求めているわけではない

・『魅力的』な文章だからこそ、むずかしくかろうと読みたくなる

戦後日本の科学ジャーナリズム全般、とくに 1980 年代以降の科学雑誌、

科学教育は、お手軽な『わかりやすさ』を強調したために支持を広

げることができなかった！？

たとえば、東北大出身の薬学博士で SF およびノンフィクション作家となった瀬名秀明さんは、バイオホラー小説『Brain Valley』読者アンケート葉書の考察から、読者は面白ければ、難しくてもガンガン読む」という結論を導いています。

設問 1：この小説の難しさの評価

とても難しい 12%
難しい 44 小計 56%
ふつう 14
あまり難しくない 5
難しいところはない 2
無記入 23

設問 2: この小説の面白さは?

とても面白い 45%
面白い 38 小計 83%
ふつう 7
あまり面白くない 5
まったく面白くない 1
無記入 4

つまり、若い世代を中心に「NMDA レセプター」といった難しい専門用語があっても面白く読む読者層があるということです (2001年の国際科学技術ジャーナリスト会議での瀬名秀明氏講演から)。

そこで、今回の講座には、2人のサイエンスライターを特別講師としてお招きしました。スティーブン・ジェイ・グールドの翻訳でも有名な渡辺政隆さんと西村尚子さん(『ニュートン』編集部での経験もあり)です。

『ワンダフル・ライフ』などの数々著作で知られる、スティーブン・ジェイ・グールドは、自然史にかんするエッセイを書くため、つぎの4原則をあげています。

1. 原典を調べまくる
 2. 結びつかないものを結びつける
 3. いわゆる常識以上にもっと掘り下げる
 4. 取るに足らないようなつまらないことがらに大きな一般性を見つける
- (S.J.グールド・ハーバード大学比較動物学博物館教授、古生物学者、
2002年5月20日没)

グールドの著作と人について渡辺さんにお話しいただき、サイエンスライターの作品づくりについて理解をまずは深めましょう。

ついで、魅力的な文章を書くために重要な二つ「文章構成のポイント」と「専門用語のとりまわし」について、具体例に基づく説明と実習をおこないます。

1)文章構成のポイント(西村講師担当)

- ・とくにイントロの位置づけ
- 基礎知識確認型
- 結果協調型
- 意外な書き出しから始めるもの

実例をもとに方法論を説明します。今回書き上げるあなたの作品では、どんなイントロを用意しますか。

2) 専門用語のとりまわし (林担当)

専門用語があっても、その文章を読みたくなくなってしまう理由は何でしょう。ていねいに解説する方法、文脈のなかでわかってしまう流れにする方法、あとから関連情報や補足例がでてくることで理解が進み不満が解消される方法、

これらについて、実践的なトレーニングを進めます。

課題には、つぎの二つがあります。事前に材料を集めるなどの準備を進め、夏の学校のあいだに実際に書いてみる作業 (1600 字程度のエッセーから) と添削、討論を進め、作品の完成をめざします (優秀作品は『蛋白質 核酸 酵素』誌キュベツ覧に掲載)。

課題 1: あなたの研究テーマを『魅力的に』伝える (その研究にどんな意味があるのか、当事者と読者が共有できるように)

課題 2: 研究テーマとは別の科学のテーマを選び、それを『魅力的に』伝える (科学研究の第三者として)

当日に原稿用紙あるいはパソコン・ワープロを用いて書き出す方法もありますが、事前に上記課題に沿って原稿を書いてワークショップに持ち込んでいただくのも大歓迎です (メールでお送りいただくのも大歓迎、送り先は、hayashi@udinet.com)。

現在、WS 担当講師の林、西村、渡辺でテキストの準備を進めています。それについては、順次アップしていきますので、お楽しみにしてください。

林 衛 (科学編集者・NPO サイエンス・コミュニケーション理事)

【講師の素顔】 林 衛 先生

科学編集者，NPO サイエンス・コミュニケーション
理事（科学革命家）

E-mail: hayashi@udinet.com



3)略歴：

高校卒業と区役所勤務を経て進学。大学院では地球史研究をおこなう。1994年から2001年まで岩波書店『科学』編集部に在籍，さまざまな工夫をおこない，約20年続いてきた部数減に歯止めを掛け，売り上げ部数増を果たす。ガリレオ・サイエンスシリーズ no.1 『どうして、理科を学ぶの？』（日本評論社），『ノーベル賞100年のあゆみ』（ポプラ社）などの編集・執筆をおこなう。ユニバーサルデザイン総合研究所研究員，東京大学教養学部非常勤講師，富山大学教育学部非常勤講師などを歴任。2002年にはNPO法人理科カリキュラムを考える会，NPO法人東京いのちのポータルサイトをそれぞれ理事の1人として設立。

4)研究テーマと抱負：

専門は，地球科学，科学ジャーナリズム論，大学評価。

科学ジャーナリズム，科学教育，科学コミュニケーションの改善を通して，21世紀の科学革命を！

5)趣味：

写真撮影，水泳。

6) :研究室に寝泊まりしながらたくさんデータをだして多くの論文を読み，指導教官とときには激しく対立しながら，ある時一つの発見にたどり着いたたいへん幸せな時間でした。

7)NPO「サイエンス・コミュニケーション」：<http://researchML.org/SciCom/index.html>

NPO 法人理科カリキュラムを考える会理事 <http://www.sh.rim.or.jp/~science/>

ガリレオ・サイエンスシリーズ(日本評論社)：

<http://aserve.procen.net/nippy/books/bookinfo.asp?No=2015>

NPO 法人東京いのちのポータルサイト理事：<http://www.tokyo-portal.info/>

演題：『文章の流れ・構造を作るための考え方と実例』

【講師の素顔】：西村 尚子 先生

サイエンスライター

E-mail: naoko-n@ka2.so-net.ne.jp



3) 略歴

1967 年生まれ、神奈川県出身。1991 年、早稲田大学人間科学部卒業。専攻は細胞生物学。卒論研究時に自分には研究生生活が合わないと考え、内定していた某製薬系会社を辞退して出版界に就職。卒業後約 10 年にわたり、正社員として科学雑誌ニュートンの編集に携わる。その後、フリーランスのサイエンスライターに。日経サイエンス・nature 日本版・総研大ジャーナルなどの雑誌、医学・分子生物学関係の専門書、博物館、製薬会社資材などで、生命科学分野の仕事を手がける。

4) 研究テーマと抱負

子どもを含めた一般の人を対象に、科学に関心をもってもらうためにはどうしたらよいかを追求したい。媒体は特定せずに活動している。分野的には分子生物学が一番得意。

5) 趣味

- ・子ども(6歳男児)を寝かしつけた後に、一人でケーブルテレビの海外ドラマをみること
- ・おいしい食事をしながらワインを飲むこと
- ・医学や科学研究がらみの SF やホラーを読むこと
- ・いごごちのよい部屋を作ること
- ・年に一度、海外の海辺でバカンスを過ごすこと(実現できないことも多し....)
- ・そしてもちろん、仕事をする

6) 御自身の院生、ポスドク時代について(若手へのメッセージも)

- ・「これだけは負けない」というものを極めつつ(研究にこだわる必要はありません)、広い知見をもつように心がけてください。そうすれば、今、先のビジョンが見えなくても、あせる必要がなくなります。
- ・他人とのコミュニケーション能力を養ってください。人は一人では生きていけません。どれだけわかりあえるかが、研究でも仕事でもプライベートでもQOLを高めるカギになります。

演題：『サイエンスライター グールドという存在』

【講師の素顔】：渡辺 政隆 先生

サイエンスライター 科学技術政策研究所

E-mail: mwatanab@nistep.go.jp



3)略歴：

東京大学農学系大学院博士課程修了。

サイエンスライターとして活動する傍ら、立正大学非常勤講師、大阪女学院短大非常勤講師、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科客員助教授・非常勤講師等を経て、2002年3月から現職。鹿児島大学理学部非常勤講師も兼務。

『隕伝子の謎に挑む』(朝日選書)、『シーラカンスの打ちあけ話』(廣済堂出版)などの著書のほか、『ファンダフル・ライフ』(グールド著、早川書房)、『生命 40 億年全史』(フォーティ著、草思社)、『ダーウィン』(デズモンド&ムーア著、工作舎)ほか訳書多数。

4)研究テーマと抱負：

専門は進化生物学、科学史、科学コミュニケーション。

サイエンスライター・科学コミュニケーターという仕事の市民権を確立し、科学雑誌、ポピュラーサイエンス書がもっと読まれる(売れる)世の中の実現を目指したい。

5)趣味：昔はバードウォッチング、今はフライフィッシング。

6) D 論書いときゃよかったなあ。

7)<http://www.nistep.go.jp/index-j.html>